

# 家庭愛増進術

——型でなしに

岡本かの子

青空文庫



わたくしは自分達たちを夫とか妻とか考えません。

同棲どうせいする親愛どうせいなそして相憐あいあわれむべき人間同志と思つて居います。そして元来がんらいが飽あき安い人間の本能を征服で出来て同棲を続けつる者同志の因縁いんねんの深さを痛感いたします。わたくしは因縁こそ実じつに尊とうとくそれを飽あくまで迄までも大切にすべきものだと思つて居おります。其処そこに優しい深切しんせつな愛情が当然起おこるのであります。

わたくしもわたくしの同棲者も元来が或ある信念の上に立つと従じ順じゆんな人間になり生活意識や情操じようそうが一ひと所に集注しゅうちゆうするたちと見えます。(それゆえ却かえつてこの信念を樹立し合あわなかつた昔はお互いに或ある部分ぶんが少し散漫さんまんな所ところもありました)

さて、わたくし達は「夫婦」だなどと云いわれるとびつくりする  
ようなへんな気がいたします。「夫婦」でないと云うのもそらぞ  
らしいでしょう、でもそれ以上とかそれ以下とかそれ以外とかも  
云えないのでしようね。強しいて形容詞のなかへ入れられないよう  
な人間同志が無むじょう上の信頼と哀あいらく樂あわれみと相憐あわれみとを共にして生きて居い  
る。——

既すでに同一感情と生活意識の上に立つて生きて居るとしますれば  
一つひとつのものを喰たべ、同じ所を視み、なるべく同じ所に居たいのはあ  
たりまえです。

「あの人達は甘い。」

「あそこではいつも一いっしょ所に出かける。」

「へんに仲が好い。」

などと皮肉らしく云われても平気です。

「かんしんな同棲者達だ。」

「模範的な同棲者達だ。」

こうほめられてもあたりまえのような気がします。

世間を対照してではなくわたくし達はわたくし達の信念を

行つて居るのでから。

「かの子さんはお嬢様育ちだから一平さんが世話をしない

と他所へ出られないからいつでもついて行つて貰つて居る。」

斯う云われても嘘とは云いません。しかし家の内では実に私は

一平の召使のような働きをする時がいくらもあるのですから。

両方で適度に助け合い世話もやかせ合わなければ両者の親愛はむしろ保てないと私の生活意識の一部分が明確に感じて居ます。

自分の大切な生命力をついやさ無いものに本当の愛あいねん念の残るはずはありません。自分の仕事が実にいそがしい主人が、たまにはめんどろと思つても、主人は主人のひまを割さいてわたくしの為ためにして呉くれます。(他所へつれて出てもらうことより今の処別ところに何も世話はやかせませんが)それが習慣となれば随したがつて自然にその時々ときのわたくしへの労力と思つて呉れるでしょう。

元がんらい来家事にむかない私が自分の研究の暇ひまをさいて、とにかくそれに励はげむようになったのも仕向けられるばかりでは済まないこれによつて仕向けて上げようと云う意いりよく力から始ことまった事です。

それから又またいくら信念の上に立つた親愛同志の同棲者に対してでも、やはり些ささい細な観察や評価の眼はにぶらしてはなりません。それは決して其その結果によつて打算ださん的な仕向けをするという卑いやしい考えからでは無くて、自分の身しん辺へんを晦くらまして置くという手前勝手てんぜんがてを許さない事になり、また本当に自分の親愛なものの心を停滞ていざいさせ腐敗ふはいさせ無い為のやはり叡えい明めいな愛の作業だと思ひます。時には怒りも憎にくみもします。しかしそれは私情の憎みや怒りとは違ひます。(私情で怒つたり憎にくんだりした時は直すぐに私は自分に恥じます。そして対者あいてにつつしんであやまります。)

うやうやしき礼いの八千度さかしのわがひと言はゆるし賜たふべし。

\*

子供に対しての事も一寸お聞きになつたようですね。子供とわたくしの間もこれと同じ気もちです。折々の歌でそれを表わして置きます。

かりそめに叱りうべしや吾子といへどこの天地のひとりの男の児

この歌は下手ですが子供を叱つたあとの気もちです。

この世なるえにしふかくして母よ子と和みくらさんみじかきこの世を。

おみなごの足らはぬふしや多からん母の名によりて許せよわが子。



子供のキャッチボールのそれ球をわんわんのように這はつて椽えんの下にさがしに行ったりどろだらけな靴下をつくろつてやることもあります。しかしわたくしの下駄げたも子供に揃そろえさせることもあります。郵便をいれにやることもあります。こちらが小言こごとを云う時もありあちらから意見されることもあります。

女じよちゆう 中ちゆう に対して同じです。余計よけいなお饒しやべり舌うそや謔うそ言いを云う時には口では云わずになるたけきつい顔して無言のいましめをしてやります。でも使い過ぎたり思い違いで云い過ぎたりしたと分わかれば「気の毒しました。」「すまなかつた。」は直すぐわたくしの口から出ます。

これらは何も家庭円満をはかろうの暮くらしよく家庭をしようのと

巧利的な計画でやるものではありません。わたくしはわたくしの生きて行く信念と好みの潔癖けつぺきから家庭の者にこう仕向けないでは居いられないのです。近年は随分ずいぶんヒステリックな他に居いつけないか  
つた女中などが長く居くて呉くれます。

要するに。時々だらしがなくなる心をひきしめてはわたくしの好みと潔癖と信念が以上のような生活にわたくしを置きます。たまたま円満な家庭との評を得たのはその無意識な結果に過ぎないのです。決して他人にこれを標示ひょうじするとうような潜越せんえつな考考えはありませんがたつてとの御質問に辞じしがたくてぎつとお返辞へんじしましたまでです。





## 青空文庫情報

底本：「愛よ、愛」パサージュ叢書、メタローグ

1999（平成11）年5月8日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十四卷」冬樹社

1977（昭和52）年5月15日初版第1刷発行

初出：「婦人画報」

1929（昭和4）年3月号

※「椽《えん》」「潜越《せんえつ》」の表記について、底本は、  
原文を尊重したとしています。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2004年3月30日作成

2013年10月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 家庭愛増進術

——型でなしに

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

著者 岡本かの子

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>